弱視学級 サポートだより



No. 2 2023.9

発行: 視覚支援センター

(山形盲学校 内) TEL.023-672-4116

文責:清野、仁藤、髙橋拓

教室や校舎内の見やすい環境条件の整備

(1)採光とまぶしさへの対応

弱視の子どもには、明るさへの対応が必要な場合があります。太陽光が直接教室内に差し込む状況では、窓側と廊下側との照度差が非常に大きくなります。まぶしさを感じる子どもへの対応としては、ブラインドやカーテンで遮光し、照明により教室内に均一の照度が保たれるように配慮することが大切です。逆に、暗さを感じる子どもへの対応として、自然光や照明だけでは明るさが不十分な場合には、補助照明や個別照明を使用し照度を保つことが考えられます。

遮光の度合いや必要な照度は子どもによって異なるので、個別に対応が必要です。天候や 照明の条件によって教室内の家具等の表面が光っていないかも確かめておくとよいでしょう。

(2)高いコントラストの確保

壁と床、壁とドア、壁とスイッチなどのコントラストの差が十分つけられていると、弱視の子どもにとっては見やすくなります。さらに、教室環境のわかりやすさという点においては、可能であれば特定の活動スペースの色を塗り分けるなどすると効果的です。

机上も黒っぽい色調の方が教材が見えやすいので、書見台を含め天板を黒色に塗るか黒のシートやマットを敷くとよいでしょう。給食の時のトレイやランチョンマットなども黒色にすると食器が見やすくなります。

(3)家具等の配置の工夫

光の反射で見えにくくならないように、黒板やホワイトボードなどが光源や外窓を背にして 置かれていないかどうかを、常に確かめておくことが必要です。

また、見え方によって視野が欠けていたり狭かったりする場合は、歩行する際のスペースは十分に確保しておくとともに、日常的に歩行する動線上には障害となるような物を置かないように注意することが必要です。新しく物を置く場合は、事前に伝えたり、一緒に確認したりしましょう。これは全盲の子どもへの対応としても必要なことです。

さらに、日常的に使う道具や教室内にある物品には蛍光テープなどを目印として貼っておくと、使いたい時に簡単に探すことができます。

(4)校舎内の環境整備

廊下や階段、体育館など校舎内には、段差があったり、暗かったりして、歩行等に際し、安全ではない場所がいくつか存在します。見えにくい場所や注意を喚起すべき場所に照明を付けて明るくしたり、段差の起点と終点とがはっきりとわかるように床面と段差を区別しやすい色に塗り替えたり、階段の各段にはコントラストのはっきりした滑り止めを設置したりするとよいです。階段の両側には手すりをつけるなど、安全に安心して移動できるための配慮も大切です。

(参考書籍)

『視力の弱い子どもの理解と支援』(大河原潔、香川邦生 他)教育出版 『小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援』(香川邦生・千田耕基 編)教育出版

グッズのご紹介

(1)合理的配慮のためのノート

スマートスクールで今年3月より「スクールラインプラス 合理的配慮のためのノート」の取り扱いが開始されています。発達が気になる子どもに対する教育現場での合理的配慮のために生まれた学習ノートということですが、視覚に障がいのある児童生徒にも活用できると思われます。

ノートを選ぶ際には、ノートの方眼の大きさはどの程度が適切なのか、方眼の中の補助線は必要なのか逆に邪魔になっていないか、罫線の太さや濃さは書いたり読んだりするときに有効なものになっているかどうかといったポイントがあります。

指導者が助言をしながら本人と相談して、最も書きやすい(疲れない姿勢で見ながら書ける、速く書ける、読み返せるだけの丁寧さを確保した字が書ける)ものを選び、本人や保護者が準備できるようにしましょう。

全ての児童生徒にこのノートが有効であるというわけではありませんが、種類も様々ありますので検討材料の一つにしていただけるとよいのではないかと思います。盲学校に一部実物がありますので、相談等で来校された際にご覧ください。



(2)家庭品点字シール

花王株式会社では今年5月、洗顔料やハミガキなど、形が似ていて区別のつきにくい容器を識別するための「家庭品点字シール」(墨字入り)をリニューアルしたそうです。この事業は2001年に始められ、2006年には化粧品の容器や口紅の色を識別するための「化粧品点字シール」も作成されています。視覚に障がいのある方には無償で提供しており、花王のホームページから電話やメールで申し込みできます。ご興味があればこちらも盲学校に実物がありますので相談等の機会にご覧ください。

